

福岡県立浮羽究真館高等学校長

自己評価

| 学校運営計画 (4月) | | 評価 (総合) | | |
|---|--|--|--------|--|
| 学校運営方針 | 校訓「立志・錬磨・不愧」のもと、学習意欲と活気に満ちた生徒を育成する。また、うきは市唯一の県立高校として、地域の発展と充実のために貢献するとともに、さらには全国、世界で活躍しようとする意欲と能力、行動力を持ったグローバル人材を育成する。 | | A | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | | |
| <p>昨年度は、「新たな学び(主体的、対話的で深い学び)」の実践を通して、授業改善と生徒の確かな学力の一層の進展を目標とし、ICT機器の効果的活用を図りながら、生徒の学力向上に寄与できるよう力を注いできた。この取組みについては今年度も継続する。</p> <p>また昨年度は、コロナ禍により本校生徒の姿を校外に発信する機会が殆ど設定できず、世間からの思いをした。今年度はこの機会を充実させ、地域や小中学生に対するアピールの機会をできるだけ多く設け、そのことを通じて、生徒自身の自己有用感や主体性を高めさせたい。併せて、自尊感情や奉仕の精神などの豊かな人間性の涵養の推進にも力を注ぐ。</p> <p>進路面においては、入試情報や求人情報を的確に提供することで、大半の生徒は希望進路を達成できた。今年度も、さらにキャリア教育を充実させ、生徒の職業観や探究心の育成を図る。また、そのことを通じて、高い志を持たせ、主体的に自己実現に向かう生徒を育てる。</p> | 「高い志」の育成 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(職業観の育成、在り方・生き方の探求、探究心の育成)を充実させ、生徒の進路意識を高める。 学系等に応じた各種資格の取得を奨励する。 世の中の動向を的確にとらえ、それに対し適切に対応できる能力や判断力を身につけさせる。 | | |
| | 「確かな学力」の育成 | <ul style="list-style-type: none"> AL(「主体的、対話的で深い学び)」の実践を通じ、魅力に満ち、かつ分かりやすい授業を展開する。 生徒の理解を助けるために、ICT機器を適切かつ積極的に活用する。 アダプティブラーニングの研究を通じ、「個」に応じた指導を推進する。 「指導」と「評価」の一体化を目標とした、適切な評価法の研究を継続する。 | | |
| | 「豊かな人間性」の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ◎究真館三原則(「時を守り 場を清め 礼を正す」)をあらゆる場面で徹底させる。 互いを認め、いじめや差別を絶対に許さない人権意識を涵養する。 達成感を味わい、自己有用感や誇り・愛校心を育むことに繋がる学校行事を積極的に取り入れる。 生徒が主体的に取り組むことができる生徒会活動や部活動を推進する。 地域等と連携した「総合的な探究(学習)の時間」や学校行事を積極的に実施する。 社会に貢献する奉仕の心を育むボランティア活動についても、積極的参加を奨励する。 交通安全教育を充実させ、登下校時の事故を未然に防ぐ。 | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 |
| 学習指導 | 授業における究真館三原則(時を守り 場を清め 礼を正す)の徹底 | 家庭と連携して時を守る指導を徹底し、遅刻率2%以下を目指す。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・究真館三原則の「時を守る」より、遅刻率を2%以下を目標としたが、達成することができなかった。体調不良を理由とする遅刻が多いが、朝起きれないといった生活リズムの乱れの理由も目立ち、今後の課題である。三原則の「場を清める」意識を持たせるために、教室の環境整備として授業後に黒板をきれいに消すことを推進し、破損した黒板消しを新しくするなどの整備を行った。 ・ICTを活用した授業を推進し、タブレットを用いた調べ学習や生徒同士の意見の交換や発表活動など、様々な新たな学びの形態を取り入れた授業研究がなされた。1人1台のタブレット端末が配置されており、より一層の活用を推進していくことが今後の課題である。また、「指導」と「評価」の一体化を進めるためにタブレットを用いて学習活動の成果を記録していくなどの活用が今後の研究課題である。 |
| | | 学習環境の整備と充実を図る。 | B | |
| | | 黙想指導や挨拶を徹底し、授業を大切にしている姿勢を育成する。 | B | |
| | 「分かる」授業を追求するための授業改革 | 「主体的、対話的で深い学び」の実践を通して授業改善を行う。 | A | |
| | | ICT機器を適切かつ積極的に活用し、「分かる」授業を目指す。 | A | |
| | | 「指導」と「評価」の一体化を目指す「適切な評価法」の研究を継続する。 | A | |
| 学ぶ力の育成 | Classiを活用した学習時間調査を分析し活用することで自ら学ぶ姿勢と学習習慣を定着させる。 | C | | |
| | ICT機器を活用したアダプティブラーニングを取り入れ、「個」に応じた指導を推進する。 | A | | |
| | 考査の事前指導や振り返りの時間を活用して基礎学力の定着を図る。 | A | | |
| 生徒指導 | 豊かな人間性を育み、いじめや人間関係トラブルを生まない集団の形成を目指す。 | 面談週間やいじめアンケート、ネットハラスメント等を利用して生徒の変化やメッセージを捉え、問題の早期発見・早期対応を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策や人間関係等のトラブルに関しては職員間でコミュニケーションを密に取り、早期に発見しSCやSSWと連携を行い、チームで取り組むことができている。 ・行事(運動会、鷹取祭)はニューノーマルな形で実施でき、その中でリーダーの育成や生徒会活動の活性化を行うことができた。また、小麦プロジェクトやうきは市議会との意見交換等、地域との連携活動も充実している。 ・事故報告件数は1件で、大きな事故はなかった。うきは警察署との連携(交通講話、安全指導)がとれ感謝している。しかし、数件自転車や原付バイクの迷惑運転に関する連絡が地域住民からあり、その都度指導を行った。 ・生徒会活動の活性化と基本的生活習慣(挨拶、時間、清掃)の徹底が次年度の課題。 |
| | | 職員間の情報交換を適宜行い、SCやSSWなどの専門家への積極的且つ、早期での相談体制を構築し、チーム学校で組織的対応を行う。 | A | |
| | | SHRなどを利用し、各担任がいじめ防止に関する講話を行う日や週間を設定し定期的、計画的に行う。 | B | |
| | 生徒会行事、部活動、ボランティア等を通じて生徒の自己有用感や主体性を高める。 | 部長会、部活動生集会などの機会を設け、多角的な生徒指導を行う。 | B | |
| | | 運動会や鷹取祭などの行事を時代に合った形で生徒主体の運営を行い、豊かな人間性を育む機会とする。 | A | |
| | | ボランティア等におけるうきは市との連携を強化する。 | A | |
| 交通マナーへの意識を向上させ、交通事故件数「ゼロ」を目指す。 | バイク通学者集会を定例化し、交通マナーに対する意識の向上を図り、交通事故件数「ゼロ」を目指す。 | B | | |
| | 校門指導の際、吉井駅やバス停周辺など現地での指導の機会を設ける。 | C | | |
| | 地域警察と協力し、交通安全に関する講演会や講習会を実施する。 | A | | |
| 進路指導 | 進路実現100%を目指す。 | 進路希望調査を年2回行うことで生徒の進路希望を把握する。また、クラス担任・学系チューターによる丁寧かつ連携した指導を実施する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を実施し、すべての職員で生徒の進路希望を共通理解し進路指導に役立てる。特に、4年制大学進学、民間就職、公務員の希望者には早期から指導する。 ・1・2年は3月に進学希望者と就職希望者には分け、進路ガイダンス(進学講演会・就職説明会・学校別説明会・面接指導・志望理由対策など)を実施する。1年は、9月にアクティブラーニングガイダンスを学部別に実施する。1・2年は公務員講座を、3年は6月に進路希望別にガイダンスを実施する。 ・課外授業・校外模試・共通テストを案内する際は、学年で4年制大学進学希望者集会を開き、学校推薦型入試だけでなく一般入試まで視野に入れて、その必要性を十分に説明した上で希望調査を実施する。特に、4年制大学進学希望者は、模試を最低1回は受験させる。 |
| | | 入試情報・求人情報などを収集・分析し、学年に応じた的確な進路指導を行う。 | A | |
| | | 「鷹取」を活用し、進学・就職に関する知識を充実させ希望進路実現を図る。 | B | |
| | キャリア教育を推進する。 | 「総合的な探究の時間」を活用し、進路学習や課題研究の取組を充実させる。 | B | |
| | | 「キャリアパスポート」を活用し、活動の記録・振り返りを行うことで自己の生き方や進路を考える。 | B | |
| | | 学年ごとに生徒の希望進路に応じた進路ガイダンスを実施し、進路実現へ向けての意識を高める。 | A | |
| 進路に沿った学習時間の増加に努める。 | 課外授業・校外模試・スタディサポートなどの学習機会を計画的に運営し、学習意欲の向上を図る。 | B | | |
| | 面接指導・マナー講座などを計画し、自分を振り返る機会を充実させる。 | A | | |
| | Classiを活用し、模試の分析や個別最適化の指導を実施する。 | B | | |

| 学校関係者評価 | |
|---------|--|
| 評価(総合) | <p>自己評価は</p> <p>A 適切である</p> <p>B 概ね適切である</p> <p>C やや不適切である</p> <p>D 不適切である</p> |
| 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立は、生徒たちが卒業した後、自律豊かな生活が送れるようにするためにも、最低限のことだと考える。学校での居場所作りとともに、家庭との連携を強め、しっかりと進めてもらいたい。 ・授業研究が進んでいることはいいことである。新学習指導要領の実践やICTの活用を含め、一人一台端末をどのように活用するかなど、始まったばかりだと思われる。今年度の反省を踏まえ、今後どのようにICT活用を具体的に進めていくか、新学習指導要領に則った評価の在り方も、さらなる研究が必要だと考える。生徒一人一人がわかる授業の実践を進めて欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で、連携が取れていることは非常に良いことである。今後も、早期発見、早期対応に努めてほしい。 ・コロナ禍で、行事の内容や在り方に苦慮されていることが伺える。一方でその対応が、行事本来のもつ本質を考えると、良い機会になったと考えられる。生徒が自発的な運営をすることで、生徒たちの心の成長にもつなげてほしい。 ・地元うきは市との連携した取組が積極的に進められており、より一層進めて欲しい。 ・来年度は、生徒の活動を中心に行事や委員会活動を積極的に行って欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・大きく社会のニーズが変化の中で、生徒たちの進路も多岐にわたっている。保護者と連携し、丁寧かつ個別の進路指導をお願いしたい。 ・毎年のように、大学の入試制度も大きく変化している。その変化に遅れることなく、つねに最新の情報を取り入れ、生徒や保護者へ効果的に提供し、進路実現につなげてほしい。 ・生徒の第1希望にそった進路実現をするためには、本校生徒の実態にあった模試や課外への取組も重要なポイントになると思われる。入学時から卒業時3年間を見通したキャリア教育の実践を通して、実効性のある進路指導を実施して欲しい。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | | 次年度の主な課題 |
|--|--------------------------------------|--|---|---|--|
| 研 修 | 職員の授業力を向上させ生徒が学ぼうとする力を育成する。 | すべての生徒が50分学び続けることができる、魅力ある授業づくりに取り組む。 | B | A | <ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末に対応した、更なるICT研修の充実が求められる。情報推進主任やICT支援委員と協力して、本校のニーズに合わせたICT研修について実践的なものを企画する必要が 朝読書の徹底がまだ不十分な状況があるので、今後も本の紹介や読み聞かせなどの活動を通して、読書活動の充実を呼びかけていきたい。 |
| | | 授業づくりのための職員研修を行い、授業力を高める。 | A | | |
| | | すべての教員がICT機器等を活用した授業を実践しやすいよう、ソフトウェアライブラリ等を作成する。 | A | | |
| | ニーズに応じた職員研修を実施する。 | 各分掌と連携し、本校のニーズに即した職員研修(年3回)を計画する。 | A | A | |
| | | 教育センターの研修など、各種研修案内を行い、研修参加を推進する。 | A | | |
| | | 送付されてくる研究紀要や養成講座等の案内を行い、教員の資質向上を促す。 | A | | |
| | 図書館の活用を促進し、読書習慣を確立する。 | 書籍・図書館に関する情報発信を行い、生徒や職員の図書館の利用を推進する。 | B | B | |
| | | 読書週間の校内放送で本の紹介や読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して、図書委員会の活動の活性化を図る。 | A | | |
| | | 朝読書の活動を推進し、生徒の読書に対する関心を高めさせる。 | B | | |
| | 庶 務 | 式典・儀式の計画及び庶務関係行事を円滑に実施する。 | 式典・行事・儀式は、関係部署との連絡を密にし、一か月前を目途に計画する。 | B | |
| 要項を速やかに作成し、職員に周知徹底を図る。 | | | B | | |
| 防災避難訓練は地域の特色に合わせて計画する。 | | | B | | |
| 丁寧かつ正確に諸務を遂行する。 | | 教育活動必携・学校要覧・新入生のしおりを計画的かつ正確に作成する。 | A | A | |
| | | 職員連絡網・日直当番割などを速やかに作成し、配布、配信する。 | B | | |
| | | 各種奨学金等の情報を、生徒・保護者に確実に周知する。 | A | | |
| PTA役員、同窓会理事と協力して諸行事を成功させる。 | | PTA役員との連絡を密にし、PTA活動の活性化を図る。 | C | B | |
| | | PTA活動の在り方を見直すと同時に、行事への参加を促す。 | B | | |
| | | 同窓会行事への開催協力を行い、奨学生の選考、激励等、適切に実施する。 | B | | |
| 学校活性化推進 | | 中学校訪問等の充実 | 中学校等へのアピールポイントを明確にし、持参資料等を工夫する。 | A | B |
| | 職員の授業力向上のため、職員が1回以上、小中学校との相互授業研修を行う。 | | B | | |
| | 年間2回以上、本校職員による小・中学校への出前授業を行う。 | | C | | |
| | 生き生きとした生徒の姿を発信する | 1週間に1回はホームページやSNSの内容を更新し、よりタイムリーにより効果的に掲載する。 | B | A | |
| | | 学校パンフレット、写真館だより等で生き生きとした生徒の姿を発信する。 | A | | |
| | | 体験入学等の準備を計画的に行い、中学生や保護者に本校の魅力を伝える。 | A | | |
| | 地域に根差した活動の充実 | 本校の情報を地域回覧板で閲覧する。 | A | A | |
| | | 課題研究発表会やボランティア活動等、地域と連携した事業等を推進する。 | A | | |
| | | うきうきスポーツ教室を年に6回実施し、「小・中・社会体育連携活動」を充実させる。 | A | | |
| | 保 健 環 境 | 健康教育活動の推進 | 定期健康診断を計画的に実施し、健康の保持増進に努める。 | A | A |
| 健康相談を適宜実施し、諸行事における事故を未然に防止する。 | | | A | | |
| 諸行事を含む学校生活全般で、新型コロナウイルス感染症・熱中症対策に取り組む。 | | | B | | |
| 環境美化意識の向上 | | 美化コンクールを1、2学期に各1回実施し、生徒の美化意識の向上を図る。 | A | B | |
| | | ゴミの散乱防止など校内美化に関する積極的な取り組みを図るため、生徒中心の各委員会を活用する。 | B | | |
| | | 月に1回定期的に美化活動や清掃点検活動を行い、学習環境を整える。 | B | | |
| 教育相談委員会の定期開催を主軸とした、全職員での組織的な対応 | | 不登校やいじめ問題等の未然防止や早期解決を目指し、教育相談委員会を年5回開催する。 | A | B | |
| | | 教育相談に関する情報を全職員で共有し、組織的な対応を図る。必要に応じ中学校との連携を密にする。 | B | | |
| | | 各問題解決に向け、専門医の受診やスクールカウンセラーとの連携を図るため、窓口としての機能を果たす。 | B | | |
| 情 報 管 理 | | 校務用ネットワークの円滑な活用と運営を行う。 | 校務用パソコンのトラブル対応やネットワークの整備、ソフトウェアの管理業務を確実に進行。 | A | A |
| | 校務用パソコンの利便性を考慮したうえでセキュリティの向上を図る。 | | A | | |
| | 共有や教材のドライブのバックアップや整理、容量の管理を定期的に行う。 | | A | | |
| | 電子黒板・タブレットの整備と管理を行う。 | 電子黒板・プロジェクターなど各教科や分掌からの要望に可能な限りこたえ利便性を向上させる。 | B | B | |
| | | 無線LANの配備を受けタブレットやChromeBookの整備や利用促進を行う。 | B | | |
| | | 電子黒板やタブレット利用のためファイル転送システムやOneDriveなどの利用を促進する。 | B | | |
| | リモート機器の整備と管理を行う。 | MeetまたはTeamsを利用した校内行事でのリモート配信の利便性を上げるため機器の整備を行う。 | A | A | |
| | | タブレットやChromeBookの整備や管理を行い学習の継続、学力保障に備える。 | B | | |
| | | リモート授業や研修会などのためにパソコンやカメラなどの機器の整備を行う。 | A | | |

| 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---------|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ICT研修の充実、本校の課題解決を進める上で、非常に有効だと考える。本校生徒のニーズにあったものとして具体的に進めて欲しい。 働き方改革を進めるよういろんなところで言われているようだが、効果的に研修を進め、教員の資質向上に努めて欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> 限られた人数で業務を行う苦労がうかがえた。前年度の反省を早期に具体的に取り組むことで、解決されると思われる。 コロナ禍で、学校行事はもちろん、PTAや同窓会行事も例年と違った対応をせざるを得なかったが、行事の在り方を考える良い機会となった。来年度に向けて改めて、検討して欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> 定員割れは、本校最大の課題である。その解決のためには、何が大切で、何が必要か、私たちも含め、より良い方向に向くように協力したい。 生徒一人一人に、居場所があり活躍できる場所をつくり、卒業してよかったと思える学校にして欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> コロナやインフルエンザなど、健康管理には十分注意をされていると思うが、国や県から更新される対応に則って、今後も継続して欲しい。 環境整備は、落ち着いた学校づくり、生徒たちの学びに向かう姿勢につながると思う。破損個所の早期対応や細かいところの清掃も徹底することで、生徒の美化意識の向上につなげて欲しい。 生徒の心の問題は、年々増加しているようだ。今後も、職員での連携だけでなく、早期にスクールカウンセラーと連携し、対応して欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、急速にデジタル化が進んでいる。タブレットの有効的、効果的な活用をより一層進めるとともに、リモート配信は、今後の教育の在り方につながると思われる。 情報を適時利用していると思われるが、個人情報や人権には十分注意して活用すること。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | | 次年度の主な課題 |
|------|----------------------|--|--------|---|---|
| 1年 | 基礎学力の定着 | 課題の出し方を工夫し、予習・復習の習慣を身に付け家庭学習を定着させる。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・課題未提出者への居残り指導、Classiによる課題配信、タブレットによる調べ学習など工夫はしているものの、予習復習の習慣はなかなか定着しなかった。また、課外などの受講人数が少なかつたので、継続して進学就職でのメリットを話していく。 ・教員同士では生徒の情報交換、頭髪などの生活指導に関する情報共有が密に出来ていた。究真館三原則に関しては、4月の究真館入門に始まり、学年集会などで意識付けを行ってきた。2学期、3学期になるにつれ少し緩む場面が出てきた。 ・学校で取り組んだ面談週間以外にも、学年の総探・HRを用いて担任面談・チューター面談を行うことができた。また、行事ごとに紙面により自分を振り返る時間を取ることができた。大運動会での女子による応援団参加、生徒会・実行委員への立候補、中学生体験入学時の多数のボランティア参加など積極的に参加してくれる生徒が多かった。 |
| | | ICT教材やClassiなどを用いて生徒個人に応じた指導を行う。 | B | | |
| | | 課外の受講や模試の受験、各種検定試験の受験を奨励する。 | B | | |
| | 基本的生活習慣の確立 | 究真館三原則を意識した学校生活指導を行う。 | B | B | |
| | | 生活態度・服装頭髪指導などに関して教員間での情報共有を行う。 | A | | |
| | | 進学・就職を意識させ、出席皆勤者40名を目指す。 | B | | |
| | 生徒の自己理解・相互理解 | 二者面談・チューター面談などを年5回以上実施する。 | A | A | |
| | | ポートフォリオなどを活用し月1回以上、自分を振り返る時間を設定する。 | A | | |
| | | 生徒個人に応じた活躍の場を設ける。 | A | | |
| 2年 | 個別最適な指導により学力の定着を図る。 | 教室内の学力差や生徒の特性を教員が十分に理解し、教科横断的な支援や指導を行う。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学年内で生徒に関する情報交換を行い、適切な支援を行うことができた。学力上位層へのさらなるサポートが今後の課題である。また、ICT活用や基礎学力定着のための朝の学習は、学年に若手教員が多い強みを活かし、効果的に行うことができた。 ・教員による遅刻等への指導は、繰り返し行っているがその効果は不十分であった。教員主導の指導から生徒のリーダーを効果的に活用した指導に切り替え、学年全体の雰囲気改善を図りたい。また、生徒間のトラブル等に対しては相談しやすい体制を整え、早期対応をすることができている。今後も継続していきたい。 ・インターンシップや課題研究発表会は計画通り実施ができて、その成果も十分なものになった。対して、進学希望者のオープンキャンパスへの参加等がコロナ禍の影響を受けあまり進んでいない。今後のサポートが必要である。 |
| | | ICT教材やClassiを有効に活用し、生徒の興味関心を引きつける授業を行う。 | B | | |
| | | 朝のHR前の10分間を利用した苦手克服や基礎学力定着の取り組みを年10回以上行う。 | A | | |
| | 豊かな人間性と基本的生活習慣を確立する。 | 究真館3原則を意識した指導を行い、朝のHRや授業開始時に余裕を持った着席指導を行う。 | C | B | |
| | | 挨拶を励行し、教員と生徒、生徒同士のコミュニケーションを促進し良好な人間関係を築く。 | B | | |
| | | 担任面談、学年主任面談を定期的に行い、人間関係トラブル等の早期発見や早期対応に努める。 | A | | |
| | 進路実現に向け、目的意識を育成する。 | インターンシップやオープンキャンパスへの積極的な参加を促し、全ての生徒の進路目標を明確にさせる。 | B | B | |
| | | 課題研究発表を通して、生徒の探究心やICT機器の活用力を育成する。 | A | | |
| | | 校内外の課外活動(部活動・ボランティア等)を通して、様々な価値観や職業感を身につけさせる。 | B | | |
| 3年 | 希望進路実現100%を目指す。 | 希望進路を実現するために、個に応じた指導を探し、徹底する。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・面談を中心に生徒それぞれに応じた声掛けを行い、進路に関する考えや悩み、相談に応じることができ、個別に対応することができた。夏の三者面談後も、生徒だけでなく保護者とも密な連携を取ることで情報交換を実施。ミスマッチがおきないようにした。 ・挨拶指導を中心に行ってきた。挨拶はできているが、自発的にはできていない。高校を卒業するにあたって、自ら挨拶できるように指導していきたい。3年間を通した皆勤者が少なかつたとともに、皆勤以外に対する指導の方法が課題である。 ・1・2年時よりも英語検定、漢字検定の受験者が増加しているが割合は少ない。各教科において、電子黒板やタブレットを活用した授業が展開されているが、生徒の主体的な学習へと結びつけるために更なる工夫が必要である。 |
| | | 進路情報を生徒や保護者と共有し、具体的な進路を定めさせる。 | A | | |
| | | 担任・学年・チューターによる個人面談を計画的に実施する。 | B | | |
| | 社会の即戦力となる人間力を育成する。 | 社会人としての在り方を考えさせ、身だしなみやTPOに応じた振る舞いを身につけさせるために、究真館三原則を徹底させる。 | B | B | |
| | | 生活リズムを安定させ、出席皆勤者40名を目指す。 | B | | |
| | | ボランティア活動への積極的な参加を奨励する。 | B | | |
| | 生徒の学力を向上させる。 | 各教科との連携を図り、資格試験の積極的な受験を促すとともに試験に向けた対策を行う。 | B | A | |
| | | 学力に応じた適切な指導を実践するために、進路・レベルなど個に応じた対応を行う。 | A | | |
| | | ICT機器やClassiを用いて、個に応じた指導を行う。 | A | | |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

| | |
|-------------|---|
| 【学 習 指 導】 | 学力差が非常に大きいのが、ICTの活用を進めることで、一人一人にあった学習がわかる授業を展開できるようにしていく。 |
| 【生 徒 指 導】 | 生徒による主体的な学校行事の運営に努め、帰属意識と併せて規範意識の向上を図る。 |
| 【進 路 指 導】 | 3年間を見通したキャリア教育を確立し、生徒一人一人の第一希望の進路実現に努める。 |
| 【学 校 活 性 化】 | うきは市と連携をより一層進め、本校の魅力化を図り、その魅力を最大限に広報していけるよう、中学校3年生に限らず、中学1、2年生や小学校の児童生徒や保護者、塾等へ内容を工夫し本校の説明会を行う。 |

| 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|-----------------|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の学力差が非常に大きく、指導に工夫はされているようだが、生徒のやる気を引き出し、粘り強く指導を継続して欲しい。 ・本校の3年間を見通したときに、入学当初の指導は、重要な位置を占めると思われる。来年度以降も、さらに充実したものとなるようにして欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・教師間の情報共有によって、全体的に適切な指導がなされているようで、良いと思う。 ・指導が徹底できなかったことが明確になっており、来年度以降にしっかりと指導して欲しい。 |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・本校の最終学年として、自尊意識や規範意識を兼ね備え、人生を自ら切り拓いていくたくましい人間を育成して欲しい。生涯学習といわれる時代である。基礎学力の定着を図り、生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ卒業させて欲しい。 |
| 評価項目以外のものに関する意見 | |
| ・特になし | |